

一覧表とオリジナルのマニュアルによる 手順の可視化

カルビー株式会社新宇都宮工場

はじめに

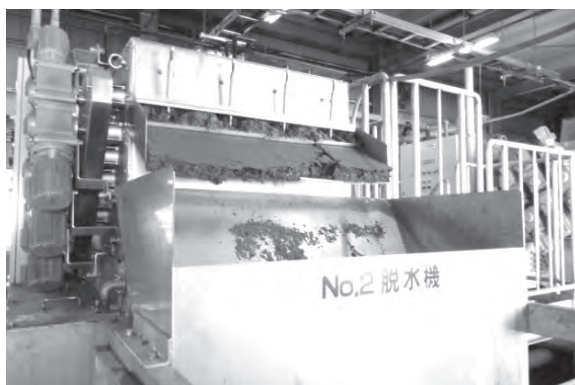
カルビー（株）はスナック菓子やシリアル食品などの製造販売を行っており、カルビーグループとして「ゼロエミッションの推進」と「リサイクル」を活動の柱に、分別収集の推進や、廃棄物発生量の抑制、残さの飼料化などに取り組み、リサイクル率はほぼ100%です。

カルビー（株）の工場の中でも最大規模の新宇都宮工場では、2019年2月にJWセンターより電子マニフェストの説明を聞いたことをきっかけに、電子化を進めていただきました。同年4月に導入を開始し、10月には全ての廃棄物で電子化を達成しています。

この度、新宇都宮工場へ訪問し、電子マニフェストの導入までの経緯や運用方法について伺ってきましたので、その内容を紹介します。

1. 廃棄物について

カルビー（株）新宇都宮工場では関東エリアの小麦系スナック、ポテトチップス、Jagabeeのすべての製造を行っており、年間約6,000tの産業廃棄物を排出している。内訳は汚泥2,700t、動植物性残さ3,000t、廃プラスチック300tであり、馬鈴薯に付着している泥と製造過程で発生する芋くずがメインになる。汚泥は工場内で脱水処理を行い、排出量を92,500tから2,700tまで減量化している。排出後、汚泥は肥料化、動植物性残さは肥料・飼料化、廃プラス



汚泥の脱水処理の様子

企業概要

会社名：カルビー株式会社
生産カンパニー東日本生産部
新宇都宮工場

創業：1995年8月

所在地：栃木県宇都宮市清原工業団地18-7

従業員数：512人

事業内容：スナック菓子の製造

チックは固形燃料化によりリサイクルされている。昨年度の紙マニフェスト発行枚数は1,550枚。

2. 導入のきっかけ

本社から工場毎に導入するよう働きかけがあったことと、電子マニフェストの導入説明会を聞き、マニフェスト業務の簡素化が図れることにメリットを感じ、電子化を意識するようになった。

3. 運用方法

● 電子マニフェストの管理体制

環境保全チームの担当者5名でマニフェストの日々の登録を行い、登録内容や処理終了報告の確認は定期的には1人で行っている。

● 処理業者の選定

委託処理業者の選定は、社内で決められた選定フローに基づいて行っている。電子マニフェストを運用する際に、取引のある業者の運用状況を確認したところ、すべて電

子化に対応していたため導入はスムーズに行えた。同じ廃棄物でもリスク管理の面から、複数の業者に委託を行っている（収集運搬8社、処分業者16社）。

● 予約登録を活用した運用

事前に処理業者が決まっている場合は予約登録を活用し、運用している。

まず、廃棄物を引き渡す前日に予約登録を行い、受渡確認票を3枚印刷する。

廃棄物を引き渡した後、引き渡しに立ち会った担当者が本登録への切り替えの操作を行う。

印刷した受渡確認票のうち2枚は収集運搬業者へ渡し、残った1枚は本登録へ切り替えられているかの確認伝票として活用している。

● 運用状況

2019年4月の導入時には、まず毎日排出している汚泥から電子マニフェストの運用をスタートし、日々の登録を行う担当者が問題なく運用することができることを確認した。その後徐々に電子化する廃棄物の種類を広げていき、2019年10月分より全ての廃棄物で電子化を達成した。

4. 導入当時の工夫

日常的にパソコンを使用しない従業員が担当になるため、操作面で不安が大きかったという。廃棄物の種類だけでなく、同じ廃棄物でも委託業者が複数にわたるため、登録を間違えてしまう可能性があった。

そこで廃棄物の種類と委託業者を載せた一覧表とオリジナルの手順書を作成し、どういうマニフェストを登録するかを可視化することによって、担当者で操作方法を共有し、習得することができた。

5. メリット

● 廃棄物の知識向上

紙マニフェストでは印字されたマニフェストの内容の確認だけを行っていたが、電子マニフェストでは自身で登録

を行うようになった。廃棄物の種類や引き渡方法等、細かいところまで把握するようになり、メンバー全員の廃棄物に関する意識が変わった。

● マニフェスト業務の負担軽減

以前は紙マニフェストの内容入力から返送されたマニフェストの照会、集計まで、全て1人で行っていたため時間をかなり費やしていた。電子マニフェスト導入後、登録の分担化や、マニフェスト情報の照会機能で処理の終了報告もすぐに確認することができ、CSVデータの活用で集計も簡単にできるようになった。月15時間あった残業を0時間にすることができ、マニフェスト業務の負担を軽減することができた。

最後に、今回取材に応じていただいた保全課中村課長、隈元主任、浅見様には、廃棄物の処理状況や電子マニフェストの運用について、現場の貴重な声をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。



マニフェスト業務担当の（左から）隈元氏と浅見氏